



中村正・秋田屋本店社長

先月19日に東京・市ケ谷にて、第22回日中蜂産品会議が開催されまし和物検査について活発な議論が展開されました。日本から59名、中国から61名の計120名が参加して、蜂蜜をはじめ蜂産品の課題について活発な議論が交わされました。毎年、会場を日中の交互に設定し、今年は当日9時に開会し、セレモニーに続き午前中は小生が日本市場について紹介し、中国側からは、中国市場の紹介と輸出状況、質疑応答が行われました。午後は品質問題に絞って中国の2カ所のCIQ(国家出入境検査検疫局)か

結びつき強まる経済



なかむら・ただし 1951年、岐阜市生まれ。県製薬協会会長。みづばちの家理事。県養蜂組合連合会長。岐阜南法人会長。県経済同友会代表幹事。県研究開発財団評議員。岐阜商工会議所常務議員。岐阜放送番組審議会委員。県フエニング協会会長。岐阜市体育協会副会長。県立岐阜北高校同窓会長。

小生は輸入自由化後、昭和49年から蜂蜜貿易に携わり41年間従事して参りました。40年余りの間には数多くの技術交流、取引上の出来事があり、何よりも中国の変遷には目を見張ります。40年前初めて中国に入国した際は、まだ国交が回復して間もない頃で、中国人全員が人民服姿と記憶しております。

北京の空港はみすぼらしく市内へ行く道路も狭く粗末で、側を歩行者や自転車走り、車は少なく、誤認を受け抑留さ

じ、淋しい気分にもなります。現在中国は経済的な減速が懸念されますが、2008年の北京オリンピック、10年の上海万博を経験し、GDPで日本を上回り世界第2位となり、今や日本の2倍を超え、20年になる前に3倍以上となると予想されます。

上海の空港もお粗末で、旧ソ連からの古びた飛行機が多いのが印象に残り、空港建物のロビーには、領主から虐待される農奴の姿の彫刻が多く暗い気分になりました。今世紀に入り中国はさ

らに蜂産品の産地へ行く機会が多くなり、例え北京、上海で政治上的の摩擦は大きくなっても、経済上の結びつきは益々強固にな

らに蜂産品の産地へ行く機会が多くなり、例え北京、上海で政治上的の摩擦は大きくなっても、経済上の結びつきは益々強固にな

日中、互いが不可欠に

困気にはつつも、ア